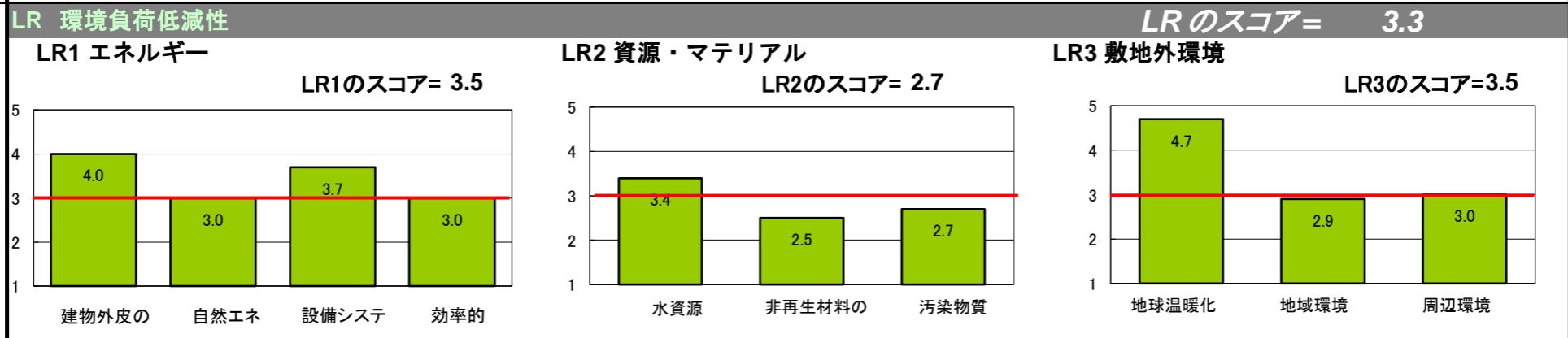
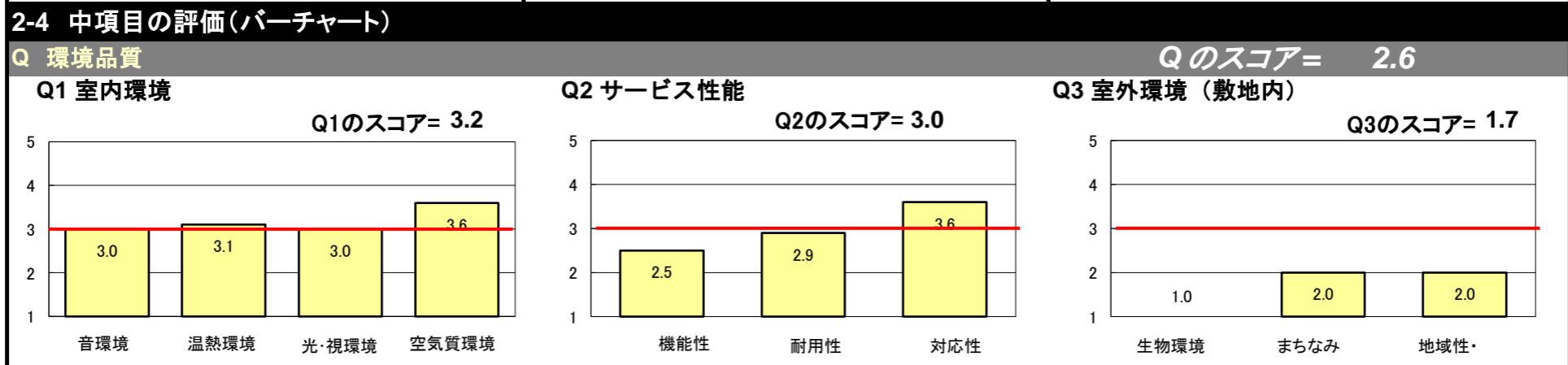
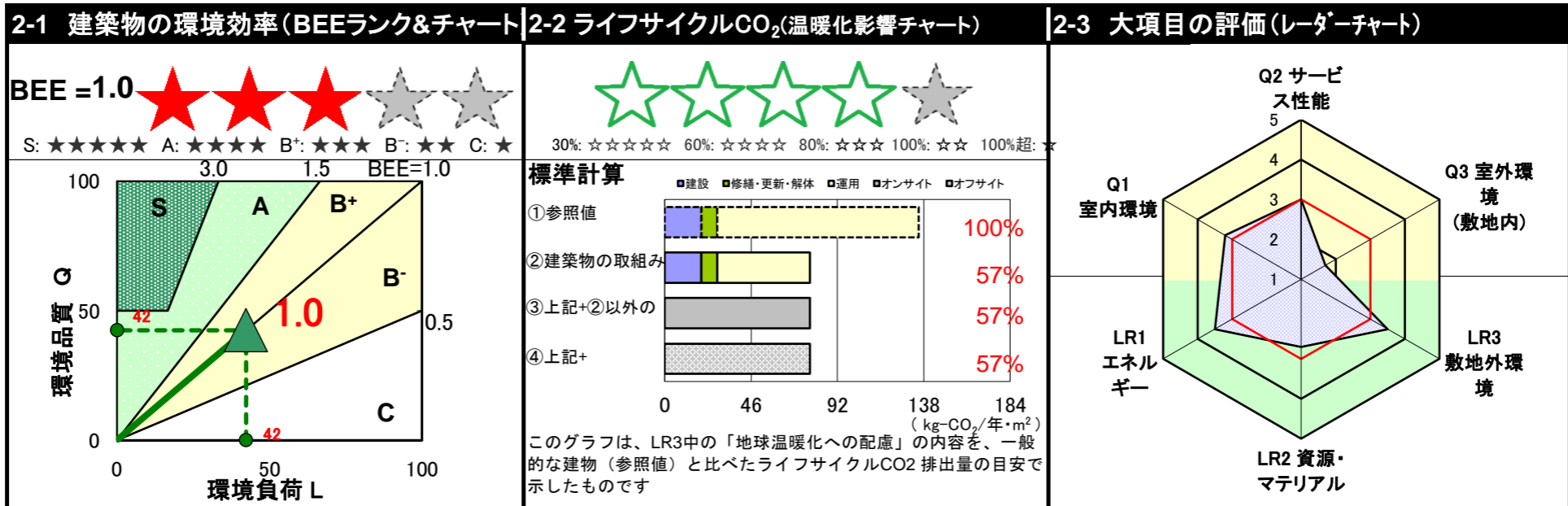


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Tステージ豊田市大林町マンション	階数	地上10階
建設地	愛知県豊田市大林町17丁目6番地5	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	128人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年8月 予定	評価の実施日	2020年8月11日
敷第1種住居地域、第1種	1,225㎡	作成者	山田一郎
建築面積	557㎡	確認日	2020年8月12日
延床面積	2,909㎡	確認者	鈴木 伸治



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.7</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>7.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.7</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	3.0	3.0	1.00	-	3.0	
1.2 遮音		0.5	3.0	0.50		3.0	0.50			
1 開口部遮音性能			3.0	1.00		3.0	0.30			
2 界壁遮音性能			3.0	-		3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-		3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-		3.0	0.20			
1.3 吸音			3.0	-		3.0	-			
2 温熱環境										
2.1 室温制御		0.3	3.0	0.35	3.1	3.1	1.00		3.1	
1 室温		0.5	3.0	0.50	3.3	3.3	0.50			
2 外皮性能	等級4相当	3.0	3.0	0.63		3.0	0.63			
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	-		-	-			
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.20		3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.30		3.0	0.30			
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		0.2	3.0	0.25	3.0	3.0	1.00		3.0	
1 昼光率		0.3	3.0	0.30		3.0	0.30			
2 方位別開口		3.0	3.0	0.60		3.0	0.50			
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40		3.0	0.20			
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	3.0	1.00		3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	3.0	0.15		3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25		3.0	0.25			
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00		3.6	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63			
4.2 換気		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	3.0	-		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-		-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	-		-	-			
2 喫煙の制御		3.0	3.0	-		-	-			
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	2.4	0.40	2.6	2.6	1.00		2.5	
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60			
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-		3.0	-			
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00		-	1.00			
1.2 心理性・快適性		0.3	1.0	0.30	2.0	2.0	0.40			
1 広さ感・景観(天井高)		3.0	3.0	-		3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	-		-	-			
3 内装計画		3.0	1.0	1.00		1.0	0.50			
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30		-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50		-	-			
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50		-	-			
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	2.9	0.31		-	-		2.9	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48		-	-			
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80		-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.0	0.33		-	-			
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23		-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23		-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09		-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08		-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15		-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23		-	-			
2.4 信頼性		0.1	2.8	0.19		-	-			
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20		-	-			
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20		-	-			
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20		-	-			
4 機械・配管支持方法		3.0	1.0	0.20		-	-			
5 通信・情報設備	通信手段の多様化を図っている	3.0	4.0	0.20		-	-			

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.8	3.8	1.00	3.6
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.6	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	2.9m以上3.0m未満	-	3.0	-		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		2100以上2900未満	3.0	4.0	-		4.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17				
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17				
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40		-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級4相当	3.0	4.0	0.33		-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.93	3.0	3.7	0.33		-	-	3.7
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-		-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	-		-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50		-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	2.7
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水		節水型機器などを用いている	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	1.00		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	-		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.5	0.63		-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	2.7	0.22		-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	2.6	0.68		-	-	
1	消火剤			2.0	0.33		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33		-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.33		-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①		4.7	0.33		-	-	4.7
2 地域環境への配慮			0.3	2.9	0.33		-	-	2.9
2.1 大気汚染防止		燃焼機器使用なし		5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自		4.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自		3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自		-	-		-	-	
3	悪臭			-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10
② 資源の有効活用			2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:7.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	設計における総合的なコンセプト 緩やかなスロープ状の傾斜地に立地しているため、公道との各レベルでの取合いに配慮した。日影の影響が周囲に拡散しないように 建物を一部搭状とし配慮した。
Q1 室内環境	「Q1 室内環境」に対する配慮事項 主寝室、水廻りなどの間仕切り壁は壁材料を二重にし遮音に配慮した。
Q2 サービス性能	「Q2 サービス性能」に対する配慮事項 各住戸内の収納スペースの充実に配慮を心掛けた。
Q3 室外環境(敷地内)	「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項 駐車場の配置を敷地西側に固めることで、人と車の動線分離を明確にした。
LR1 エネルギー	「LR1 エネルギー」に対する配慮事項 1階部分に共用部:駐輪場を配置したので2階床下からの温暖化対策の配慮:断熱材施工等をした。 1階共用部のメールコーナー、ホール便所など人の利用の多いところは人感センサー照明を設置した。
LR2 資源・マテリアル	「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項 特になし
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺住民への配慮として住居数分の駐車場と1戸あたり1.3台分の駐輪場を確保した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。